

05 ドゥオーモ: 外部と屋上テラス

「聖母マリアの誕生に捧げる」ためにこの偉大なるミラノのドゥオーモの建造が着手されたのは1386年とされています。これはミラノの領主、ジャン・ガレアツォ・ヴィスコンティとその従兄弟である大司教アントニオ・ダ・サルツツォの命によりますが、それだけではなく、ミラノの住民すべてが何世紀にもわたりこの大聖堂実現のために、建設基金の提供、あるいは鶏を寄付したり、あるいは単純に自らの労役を提供するなど各自が出来ることを貢献してきたのです。

ヴィスコンティ公は、自らの権力を表現できる大モニュメント、規模でも豪華さでも比類のない大カテドラルの建設を強く望みました。そのため、素材は単なるレンガではなく大理石をと決め、マッジョーレ湖のカンドリア村にある薄桃色がかかった大理石を選びそこから大理石の巨大ブロックをミラノ中心部まで運ぶための水路を構築させたのでした。このようにしてドゥオーモ建設の偉大な冒険、それ以降終わることのない冒険が始まったのです。実際、正面ファサードのゴシック建築部分は、ナポレオン時代になってようやく完成されましたが、その時代にはすでに古い部分の修復作業や素材の交換作業などが始まっており、その後も継続されています。

ファサードの下方部分にある5つの大扉は、内部の5つの身廊に対応しており、典型的なバロック様式です。チェラーノによる設計で、浅浮き彫りの彫刻装飾の帯部分と上階の窓とともに17世紀につくられたものです。ブロンズの5つの扉のうち、一番最近の作は一番右側の扉でルチアーノ・ミングッツィによる1965年の作品であり、ドゥオーモの歴史にまつわるエピソードが描かれています。最も古い扉は中央の扉で1800年代末につくられたルドヴィーコ・ポリアーリによるレリーフで聖母マリアの生涯が描かれています。

ドゥオーモで最初に建設された部分は、一番奥の部分、すなわち多角形のアプシス(後陣)であり、建設開始後わずか30年後に完成されています。そして建設工事はその後、少しずつ少しずつ前面に進んでいったため、何世紀もの間、古いサンタ・マリア・マッジョーレのファサードがそのままドゥオーモのファサードになっていました。当初、ジャン・ガレアツォ・ヴィスコンティはドイツやフランスの技術者に協力を求めましたが、結局、工事はシモーネ・ダ・オルセニエゴの指揮のもと、他のロンバルディアの技術者達の助けを得て始まりました。まもなく、ヨーロッパやイタリア各地からアーティストや彫刻家たちが訪れ、14世紀末にはとりわけ、当時ロンバルディアやヴェネト地方にゴシック様式を普及していた、大理石工として名高いカンピオネージの工匠や建築家がやってきました。

ドゥオーモに関する「数字」には圧倒されます。奥行きが158メートルで幅は最も広いところが93メートル、面積は11700平米にも及んでいます。規模ではイタリアのゴシック様式最大の建築物であり、キリスト教建築物でも世界第三位のスケールとなります。大聖堂の外側だけでも総体3400体のうち2245体の像が配置されさらに百体にのぼる高浮き彫りの像があります。

屋上テラスの段違いアーチの間に、135もの尖塔が建っています。一番高い尖塔は金色のマリア像、「マドンニーナ」を抱く高さ108メートルのものです。最も古い尖塔はカレッリの尖塔で1397年にこの尖塔の建設資金を寄付した商人の名前がつけられています。屋上行きエレベータの出口脇にジャン・ガレアツォ・ヴィスコンティ像の複製が置かれていますが、これはジョルジョ・ソラーリの作品でオリジナルはドゥオーモ博物館に所蔵されています。